

各論

境界性PD

不安定な自己像・感情・対人関係

DSM5による診断基準

301.83 (F60.3)

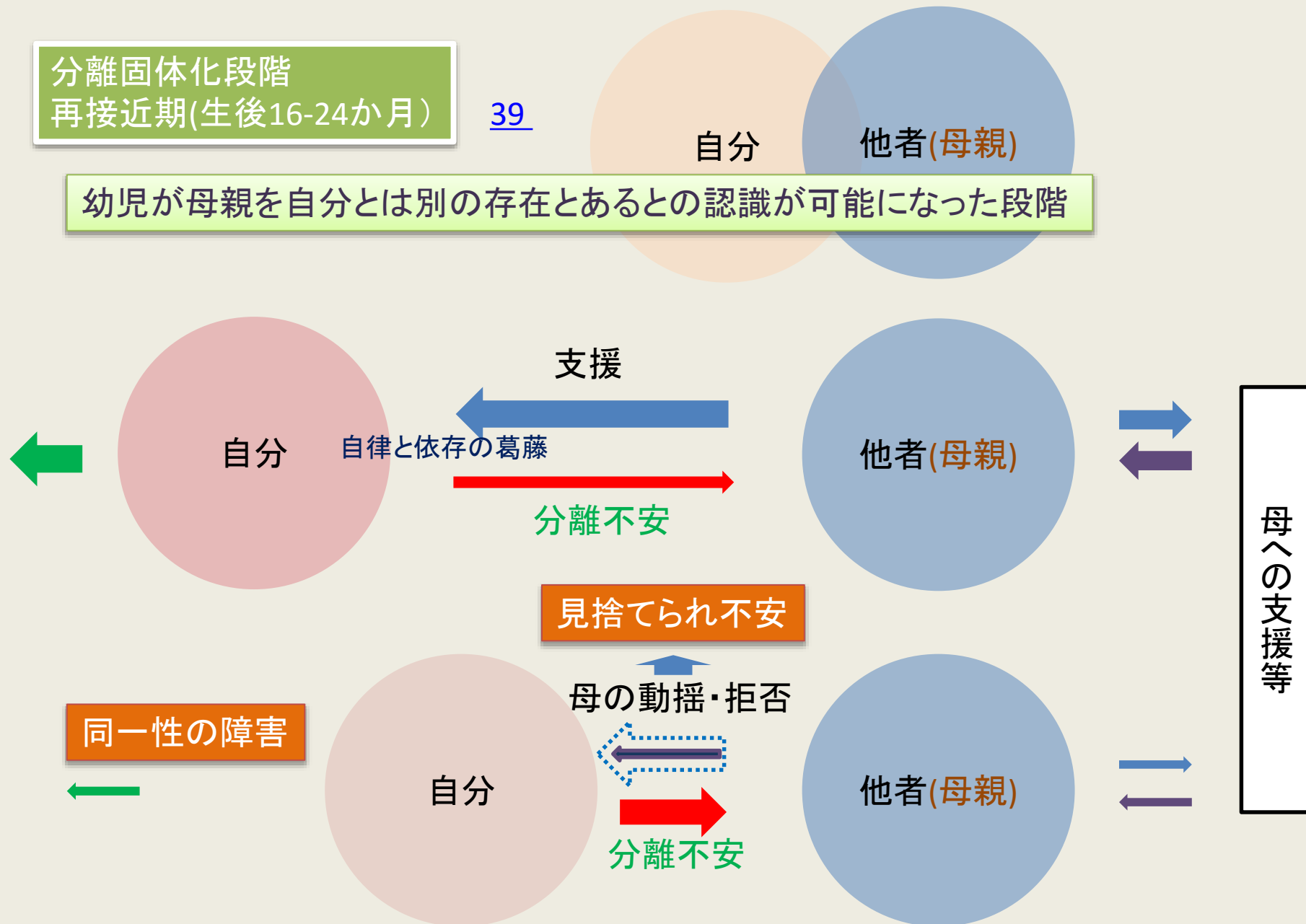
対人関係、自己像、情動などの不安定性および著しい衝動性の広範な様式で、成人期早期までに始まり、種々の状況で明らかになる。以下のうち5つ（またはそれ以上）によって示される。

- (1) 現実、または想像の中で、見捨てられることを避けようとするなりふりかまわない努力（注：基準5で取り上げられる自殺行為または自傷行為は含めないこと） **見捨てられ不安**
- (2) 理想化とこき下ろしとの両極端を揺れ動くことによって特徴づけられる、不安定で激しい対人関係の様式 **不安定な対人関係**
- (3) **同一性の混乱** 著明で持続的に不安定な自己像または自己意識
- (4) 自己を傷つける可能性のある**衝動性**で、少なくとも2つの領域にわたるもの（例：浪費、性行為、物質乱用、無謀な運転、過食）（注：基準5で取り上げられる自殺行為または自傷行為は含めないこと）
- (5) **自殺の行動** そぶり、脅し、または**自傷行為**の繰り返し
- (6) 顕著な気分反応性による**感情の不安定性**（例：通常は2～3時間持続し、2～3日以上持続することはまれな、エピソード的に起こる強い不快気分、いらだたしさ、または不安）
- (7) **慢性的な空虚感**
- (8) 不適切で激しい怒り、または**怒りの制御の困難**（例：しばしばかんしゃくを起こす、いつも怒っている、取っ組み合いの喧嘩を繰り返す）
- (9) 一過性のストレス関連性の**妄想様観念または重篤な解離症状**

分離固体化段階
再接近期(生後16-24か月)

39

幼児が母親を自分とは別の存在とあるとの認識が可能になった段階



自分と他者の関係

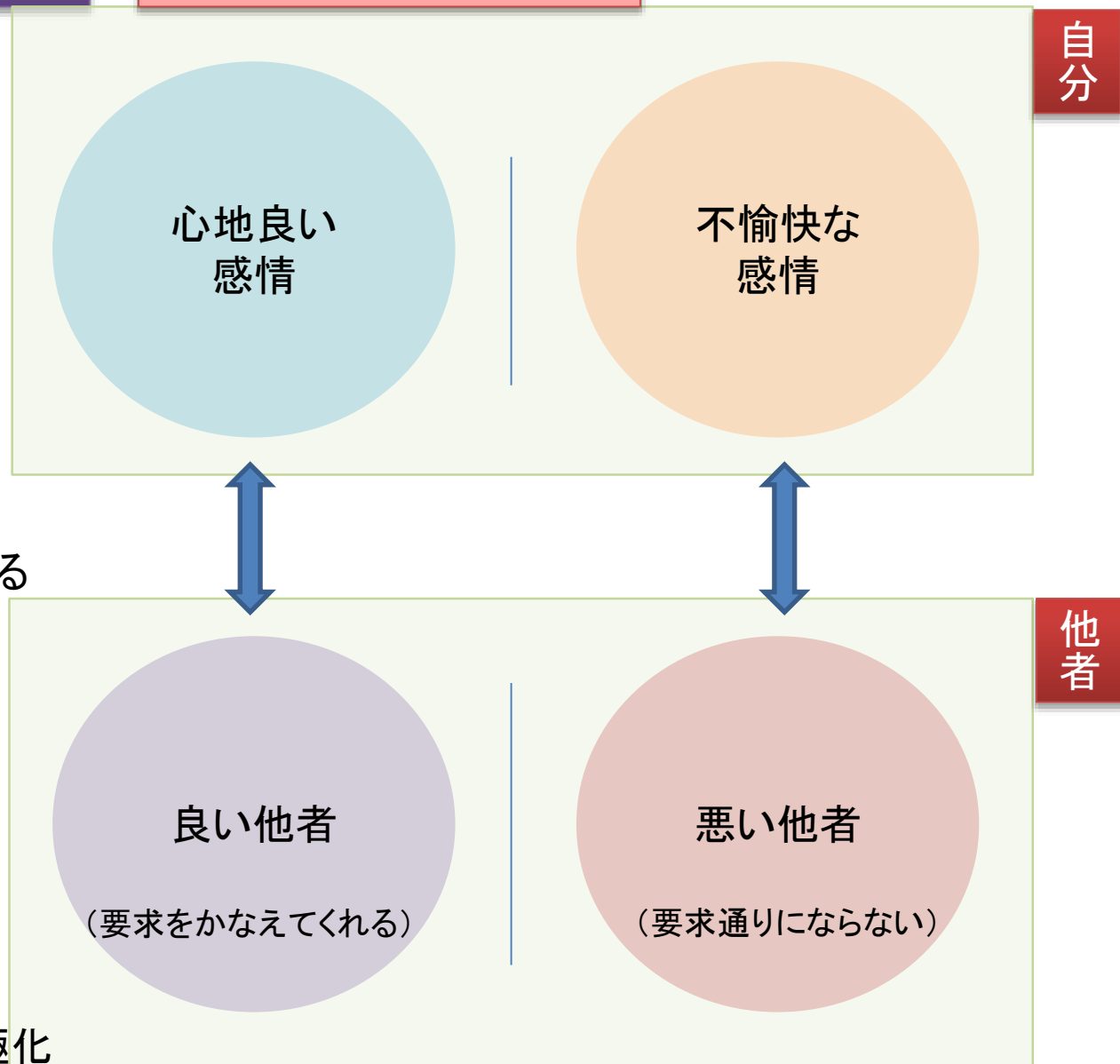
②2者関係の始まり

不愉快な感情は
悪い他者のせいに

自分が怒っていても
それは
悪い他者が怒っている
とすりかえてしまう

イライラするのは
あいつが俺のことを
怒っているからだ

悪い人、良い人と2極化



境界性パーソナリティ障害の特徴

特徴1 「見捨てられ不安」がある



依存している相手に、些細なことで見捨てられたと感じる

特徴2 感情や行動が不安定



機嫌がよかったかと思うと急に落ち込むなど、気分が安定しない

不安から逃れるために、あるいは、相手の気を引くために、リストカットや過量服薬などの衝動行為に及ぶことがある

特徴3 「確かな自分」がイメージできない

「自分らしい」ふるまい方、生き方が分からない

年齢相応の社会的役割が果たせない
(仕事や学業が続かないなど)

両極端な考えをもちやすい



上司は部下をほめることもあるが、注意することもある

↓

ひとりの人格をトータルでみることができない

場面や状況によっていろいろなふるまいをするが、
すべてひっくるめて、同じひとりの人間である

↓

境界性パーソナリティ障害の人は理解できない

成 因 2. 認知行動療法的解釈

中核的信念（自己） 私は弱くて、人を信じることができない。 私は一人でいることに耐えられない。	中核的信念（他者） 他人は言うことと考えることが一致しない。 他人は不誠実で、私を裏切る。
条件的信念 不用意に機会を与えてしまったら、他人は私を利用するだろう。 私が極端な行動をしたときにだけ、他人は私に注意を払ってくれる。 いったん不快な感情を覚えたら、その感情はどんどん大きくなり、 私のコントロールの限界を超えてしまう。	
道具的信念 いつも警戒していなければならない。 悪いことが起こったときのために、いつも他人にそばにいてもらう必要がある。 人との関係に少しでも変調がみられたときは、 私のほうから関係を絶つ必要がある。	
感 情 不安定な感情 抑うつ、不安、焦燥、空虚感、怒り	行 動 不安定な対人関係 衝動的な行動、自傷行為・自殺の脅し

図 8 情緒不安定性パーソナリティ障害（境界型）の認知プロフィール

絶対的2分法

善か悪か、完全か不完全か、愛か憎しみか、白か黒か、という二分法



人物や出来事は必ずどちらかの一方の極端に評価

(比較的中立な物事に対しても、非常に極端な解釈をする)



両極端な分類で中間がない

世界を危険に満ちたところとみなし、また自分を無力であるとする



気分や行動も突然変化

環境要因

社会的要因

社会的な抑制力の低下等社会的混乱

養育(親子関係)

分離個体化期の問題等

児童虐待との問題

日本では少ない

過保護が問題になることが多いか(町沢)

生物学的要因

遺伝的要因

大きな要因ではないが、気分障害との関係が深い

特に双極2型障害との関係(akiskal)

発達特性等は不明

症状

見捨てられ不安

同一性の障害

2極化
(分裂:絶対的2文法)

情動の不安定性
調節障害

一人でいることが苦手、
しがみつки

どうしていいかわからない

不安定な対人関係
理想化とこき下ろし

怒りの制御の困難さ
癩癪、喧嘩、怒りっぽい

一過性の精神病性障害:解離症状

自傷行為等の衝動性:自殺行動

対象恒常性の欠如
自己感の欠如

慢性的な空虚感:空しさ

感情の不安定性
短期間の落ち込みと高揚

対応

治療目標 生活技能の拙劣さ・対人関係の幼さ・感情や衝動性の制御の問題

3者関係の視点を考慮し、
現実の困難への対応に重点を置く。
幼児期の母子関係の未解決な問題の解決にはおかない

方法 下記治療システムによる治療

1. 外来主治医(マネージメント)
2. 外来での面談(主治医)
3. 薬物療法(主治医)
4. 家族支援(主治医・その他)
5. 入院治療(主治医が担当することもあるが、普通、別の治療構造となる)
6. 社会療法(デイケア, 作業所, その他で別の治療構造となる)
7. 集団療法(対人関係訓練, 社会技能訓練など別の治療構造となる)
8. 個人精神療法(一般に別の精神科医ないしは心理技術者等が担当)

自己愛性PD

誇大的自己・称賛欲求・共感性の欠如

DSM5による診断基準

301.81 (F60.81)

誇大性（空想または行動における）、賛美されたい欲求、共感の欠如の広範な様式で、成人期早期までに始まり、種々の状況で明らかになる。以下のうち5つ（またはそれ以上）によって示される。

- (1) 自分が重要であるという誇大な感覚（例：業績や才能を誇張する、十分な業績がないにもかかわらず優れていると認められることを期待する）
- (2) 限りない成功、権力、才気、美しさ、あるいは理想的な愛の空想にとらわれている。
- (3) 自分が“特別”であり、独特であり、他の特別なまたは地位の高い人達（または団体）だけが理解しうる、または関係があるべきだ、と信じている。
- (4) 過剰な賛美を求める。
- (5) 特権意識（つまり、特別有利な取り計らい、または自分が期待すれば相手が自動的に従うことを理由もなく期待する）
- (6) 対人関係で相手を不当に利用する（すなわち、自分自身の目的を達成するために他人を利用する）。
- (7) 共感の欠如：他人の気持ちおよび欲求を認識しようとししない、またはそれに気づこうとししない。
- (8) しばしば他人に嫉妬する、または他人が自分に嫉妬していると思い込む。
- (9) 尊大で傲慢な行動、または態度

成因

幼少時(4-6歳)の自己愛的欲求への共感不全

子どもが自慢したり、高ぶったり、自惚れたりしたがる
→満足体験をさせず、けなしたり、そしたりする、或いは、過度な充足をし続ける母子関係

蒼古的な
本物の自己

軽躁

抑うつ

尊大で傲慢な自己

人への共感の欠如

ダメ人間というイメージを持った自己

誇大的自己
称賛されたい欲求

自身に対する
並々ならぬ関心

劣等感
羨望

現実とのギャップ

結婚: 配偶者が自己愛的欲求に
応えてくれず事例化

職場: 責任の↑、ノルマの重荷
→周囲との折り合いが悪化

やり手の部長
指導力のある政治家

加齢等により破綻

引きこもり

抑鬱的

社会的要因

自己をアピールしなければならない現代の風潮と合致

未熟な自己愛と成熟した自己愛

未熟な自己愛

(幼児にみられる自己愛)

自分はなんでもできる、自分の願いはすべてかなうと思っている



しかし、
その一方で...

「よくできたね」
「すごいね」と
ほめてもらわ
ないと自信が
もてない

成熟した自己愛

ほめられるうちに自信がつき、等身大の自分を「これでいいんだ」と肯定することができる

褒められる経験が不足したり、けなされたり、否定されることが多いと、
けなされて自信を失っている自分を防衛するために、
反動的に「誇大的な自己」を形成

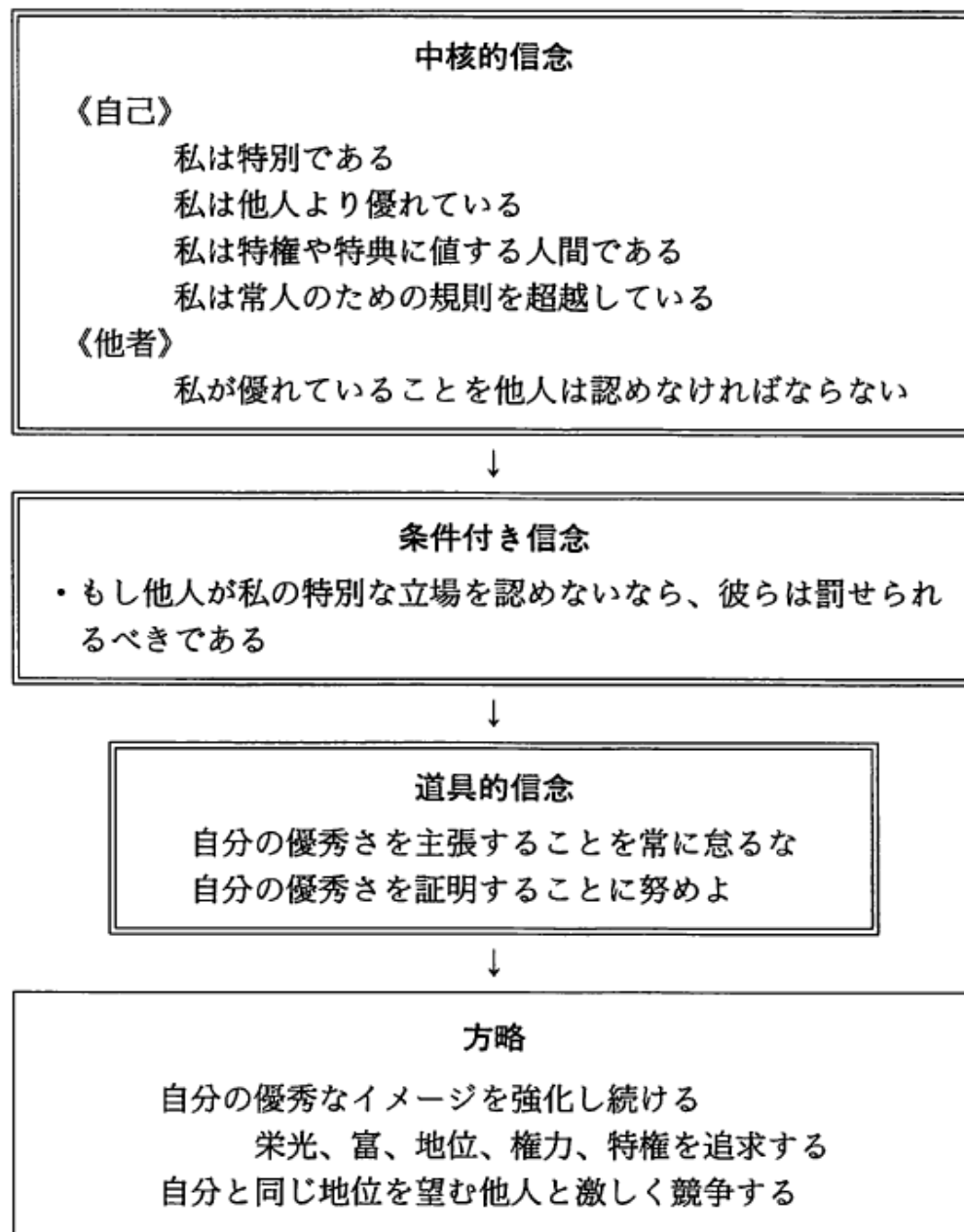


図5 自己愛性人格障害の認知プロフィール (Beck et al., 1990)

症状

自身に気づかれない尊大な自己イメージと無価値な自己イメージ

尊大で傲慢 プライドが高すぎる自信家

自分は特別なので、賞賛され、特別な扱いを受けて当然

特権意識

他者は、自分を賞賛するか、
自分の目的のために利用するものに過ぎない

賛美されたい

現実の自分がパツとしなくても、
本気で力を発揮していないから
自分の真価をちゃんと評価してくれる人がいないか

表面は上控えめで自信がなさそうに見えても、
少し親しくなり、関係が濃くなるにつれて本性が出て、傲慢で尊大に

誇大な願望の夢想

これは本来の自分の仕事・恋人ではない

共感性の乏しさと搾取性

人の感受性の無視

自分の都合や利益のために相手を利用しようとする

利用価値がある間は比較的いい顔をしている、利用価値がなくなると急に冷淡になり、そつぼを向いてしまう

ダメ人間というイメージを持った自己

劣等感と羨望

成功の階段を上っている間はいいが、状況が不利になるととて脆い

批判や敗北に耐えられない 挫折する可能性のある状況を避けることも
時に低い職業的機能水準・引きこもり・抑うつ

自己愛的怒りと嫉妬深さ

思い通りにならないと激しい怒りへ(劣等感を隠すための怒り): 暴言、暴力へ

自分に非があっても、相手の不手際や無能ぶりを一方的に責め立てる

「なぜ、おれを怒らせるんだ？」

究極的な行為は相手を破壊することか、自分を破壊すること

妬み深く、他人の幸福を喜ばない

強い羨望や嫉妬を感じ、冷静でいられない。自分の分の成功や幸せが奪われてしまったかのように感じる

相手のほうが成功を収めると、関係がギクシャクしやすい

自己愛性パーソナリティ障害の2つのタイプ

他者の評価を過剰に気にし、おどおどした態度が目立つが、自分は特別な存在であり、賞賛されるべきであるという意識は強く、賞賛や評価が得られないと、傷つけられたと感じる

控えめ・消極な
タイプ



そんない ころまん
尊大・傲慢な
タイプ



自分は特別であると思ひ込み、周囲から賞賛や評価が得られて当然と考えている。思いやりに欠け、傲慢・横柄な態度をとり続け、思い通りの評価が得られないと激しく怒り、攻撃的になる

一見、対照的なタイプに見えるが……

根本には共通したものがある

「万能で自信に満ちあふれた自分」（自分が思い込んでいるイメージ＝理想の自己イメージ）と「無能で自信のない自分」（他者が自分に抱いているイメージ＝現実の自己イメージ）とのギャップに悩み、強い劣等感を抱えている

対応

「称賛の鏡」が生きる原動力 自分を保ち、力を発揮

絶えずそばで励ましてくれる存在の必要性

本人の素晴らしさを讃え、個人的な意見や主調は控えめに

指摘は提案で(こんな風にしたらどうかな、ここを変えるともっと良くなるよ)

良き理解者とみなされ、時には批判も受け入れるように

しかし、主導権はとらず、競争はせず、
又、思い通りになる都合の良い存在にならないように用心

パワハラ、セクシュアルハラスメント等行き過ぎた行為
→相談(体面を気にするので第3者の介入に弱い)

話をじっくり聞き、意見や気持ちに共感

パーソナリティ障害がわかる本(岡田尊司・法検出版)

あるがままの自分、安らぎと充実感を体験する自分に対する認識



恥の病理

上手に甘えられない

パーソナリティ障害とは何か(牛島定信・講談社現代新書)

強迫性PD

几帳面、頑固、堅苦しい、柔軟性に欠け、杓子定規

DSM5による診断基準

301.4 (F60.5)

秩序、完璧主義、精神および対人関係の統制にとらわれ、柔軟性、開放性、効率性が犠牲にされる広範な様式で、成人期早期までに始まり、種々の状況で明らかになる。以下のうち4つ（またはそれ以上）によって示される。

- (1) 活動の主要点が見失われるまでに、細目、規則、一覧表、順序、構成、または予定表にとらわれる。
- (2) 課題の達成を妨げるような完璧主義を示す（例：自分自身の過度に厳密な基準が満たされないという理由で、1つの計画を完成させることができない）。
- (3) 娯楽や友人関係を犠牲にしてまで仕事と生産性に過剰にのめり込む（明白な経済的必要性では説明されない）。
- (4) 道徳、倫理、または価値観についての事柄に、過度に誠実で良心的かつ融通がきかない（文化的または宗教的立場では説明されない）。
- (5) 感傷的な意味をもたなくなっても、使い古した、または価値のない物を捨てることができない。
- (6) 自分のやるやり方どおりに従わなければ、他人に仕事を任せることができない、または一緒に仕事をすることができない。
- (7) 自分のためにも他人のためにもけちなお金の使い方をする。お金は将来の破局に備えて貯めこんでおくべきものと思っている。
- (8) 堅苦しさと頑固さを示す。

症状

強迫的であることは社会生活上不可欠。(医師の成功する重要な要件)

男性>女性 (2倍)

几帳面

計画、予定、慣例、規則、しきたり等の決められた手順や、やり方に強い拘り
マニュアルがないと意思決定が困難。 優先順位の決定が困難。

状況の変化、突発的な予定の変更にもろい、融通が利かない

切り替えが利かず、予定外の事態に動揺、怒り。予定表、リスト作りに快感

完全主義

細かい所に拘り過ぎて、全体のことを忘れ作業がなかなか前に進まない

適当に手を抜けない 結局達成できないことも

娯楽を先延ばしして、仕事にのめりこむ。娯楽も計画や課題が必要。

頑固

道徳、倫理、社会の価値観にひどく従順。その良心が並大抵のものでない

支配-服従関係に過敏: 尊敬する権威に過剰な服従・尊敬しない権威に抵抗

周囲に合わせたり、他人に任せることができず抱え込みすぎ、支配的

捨てられない

物、人との関係、組織や家等に強い愛着→失うと強い対象喪失→うつ
ケチでしみつたれ。しかし下記、時に大盤振る舞いをするちぐはくさ。

又、ため込んだがらくたも突如一掃されることもある。

両価的

好きと嫌い、受容と拒否の心が併存するため、はっきりした態度が取れない

衝動性: 衝動的に行動に走ってしまっ後悔することもある

感情抑制的(切り離し)

人間的触れ合いを避ける傾向

社会的触れ合いは避けないが、情緒的に触れ合うことはない

成 因

トイレトレーニング(2-3歳頃)から始まる、母親の過度の干渉・支配

排泄行為にともなう身体的快感、貯留か排泄かを自分の意思で決める誇り

母子間の情緒的触れ合いを基盤に、教育する母親の要求と一体化して排便行為をしても、自分で達成できたと実感できる。

母親の要求を受け入れる準備ができていない段階で、早過ぎる清潔教育
早過ぎる清潔教育→母親との共感性に問題→親の支配・価値観の押しつけ→コントロールされている感覚
→並はずれた行儀のよさ、几帳面さ、従順さ→自分の決めたルールへの執拗なこだわり

従順と反抗 表面は正反対の従順な態度(反動形成)内には激しい攻撃性を秘める

慇懃無礼

母の過干渉で罪悪感を引き起こすような口調での会話

スケジュール通りの生活で自発的行動を許さない

感情の切り離し

本能活動が解放され、自己主張という名の反抗も受け入れられやすく

道徳主義的で、抑圧的な堅物とみえる人格像は影をひそめ、
強迫性格を基盤にしながらも、**過食・拒食、アルコール乱用、薬物依存、ギャンブル依存**
といった**衝動コントロールに問題**を呈するケースが多くなった

激しい怒りを突出させることも

他に浪費癖、片づけることができない、脱線行為等の**行動障害**を呈するケース

末節にこだわりすぎてまとまりを欠いた末の行跡であることが多い

強迫スペクトラムの病態

戦後の高度経済成長時代

幼少時の傷つき体験

一体化願望・拒絶への過敏さ

強迫特性

完全主義
抱え込み
執着

道徳観

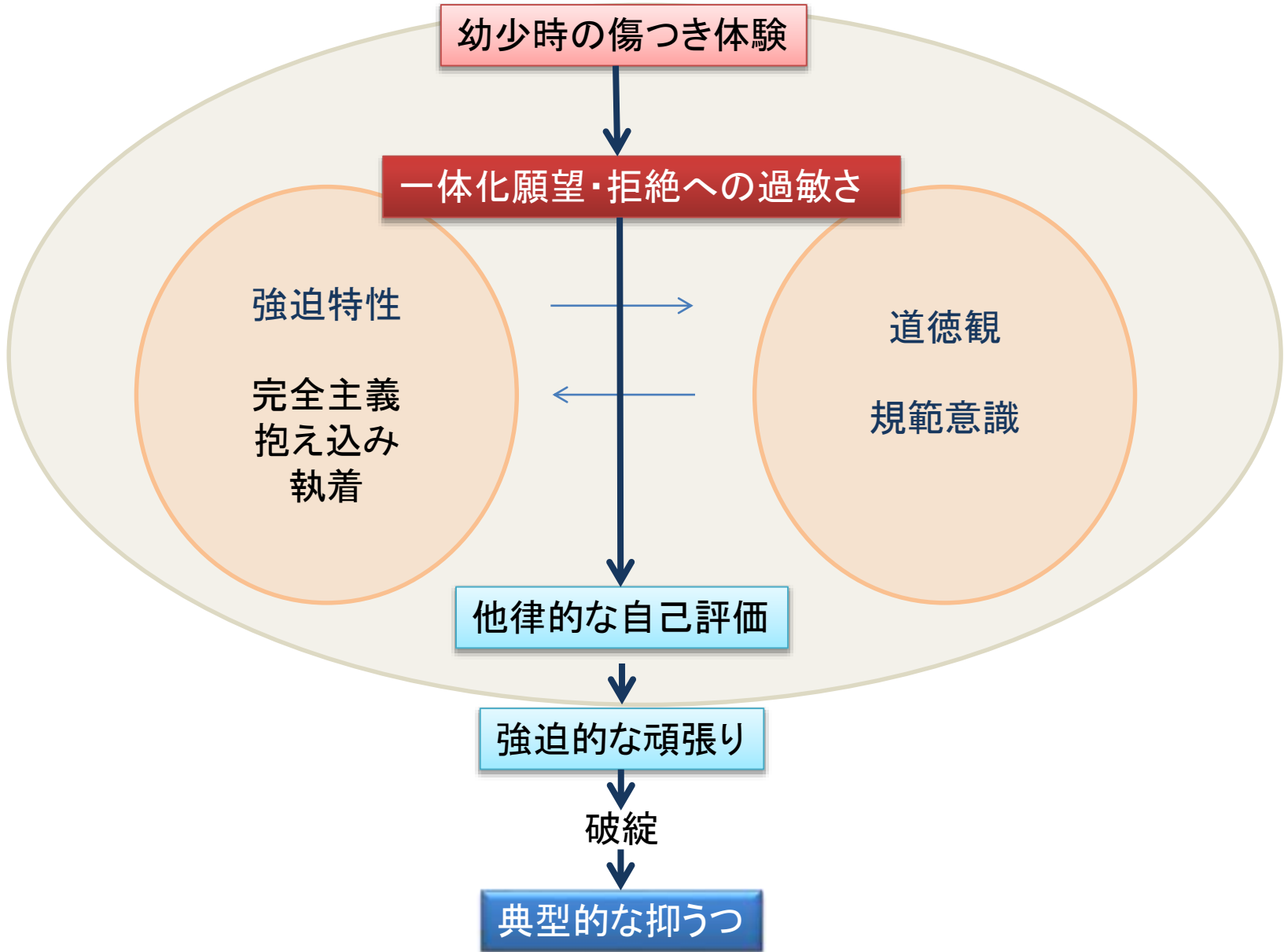
規範意識

他律的な自己評価

強迫的な頑張り

破綻

典型的な抑うつ



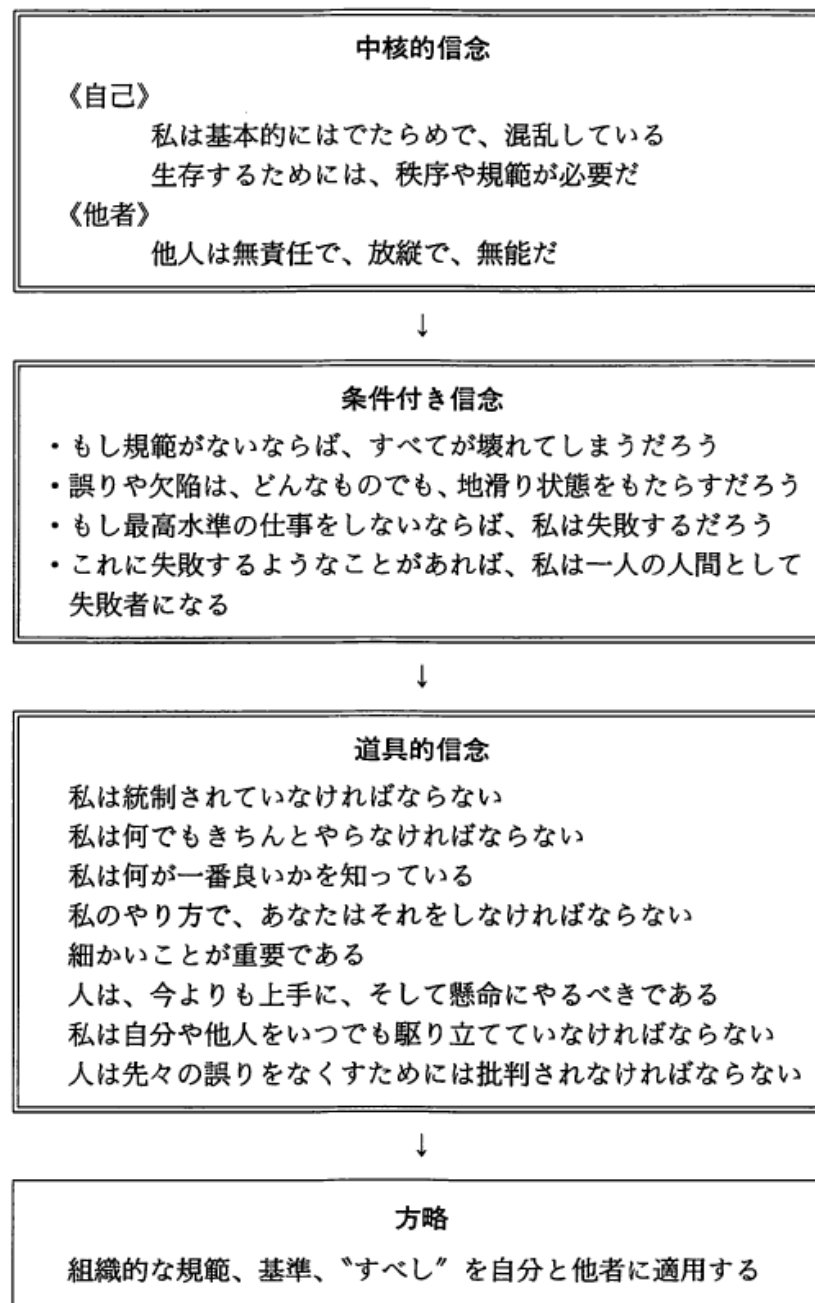


図8 強迫性人格障害の認知プロフィール (Beck et al., 1990)

対応

本人のやり方やこだわりを尊重する(中立的で無理強いをしない人間)

献身的であるが、何かと押しつけがましく、善悪による判断を下しやすい、
というかつての親イメージを、治療者に投影しやすい

アドバイスも、「それもいいけど、こういうふうにやるとなかなかいいよ」
ともう一つのオプションとして提示する

悪い自己イメージや強い罪意識 → 懲罰に値する行動に走りやすいことも

感情抑制

感情への関心・埋もれていた母への怒り等を治療者と分かち合う

解放

強迫的自己破壊行動(怒りの発作・性的衝動行為・過食・飲酒等

善悪の判断ではなく、食べたい自分と食べたくない自分の理解

悪い自己イメージや強い罪意識 → 懲罰に値する行動への行動化
(性的衝動行為等) にも注意

切り替え

とことんやる過ぎる → のめりこみ過ぎないように気分の切り替えを
余暇の活動にもものめりこみに注意を

回避性PD 高い自我理想・低い自己評価・恥の恐れ→引きこもり傾向

DSM5による診断基準

301.82 (F60.6)

社会的抑制，不全感，および否定的評価に対する過敏性の広範な様式で，成人期早期までに始まり，種々の状況で明らかになる．以下のうち4つ（またはそれ以上）によって示される．

- (1) 批判，非難，または拒絶に対する恐怖のために，重要な対人接触のある職業的活動を避ける．
- (2) 好かれていると確信できなければ，人と関係をもちたがらない．
- (3) 恥をかかされる，または嘲笑されることを恐れるために，親密な関係の中でも遠慮を示す．
- (4) 社会的な状況では，批判される，または拒絶されることに心がとらわれている．
- (5) 不全感のために，新しい対人関係状況で抑制が起こる．
- (6) 自分は社会的に不適切である，人間として長所がない，または他の人より劣っていると思っている．
- (7) 恥ずかしいことになるかもしれないという理由で，個人的な危険をおかすこと，または何か新しい活動にとりかかることに，異常なほど引っ込み思案である．

症状

高い自我理想・低い自己評価・恥の恐れ→引きこもり傾向
自立と依存の葛藤

低い自己評価(**高い自我理想**)
(自信のなさ・劣等感)

依存性を嫌う

依存性

依存的

引きこもり傾向

人を希求

スキゾイド

他者への関心薄い

批判・拒否に敏感

控え目

強迫的

完全欲が強く不安全感

強迫性

罪悪感

自我理想が高く**良心的**でこだわりやすく息抜きができない

優勝劣敗に過敏な恥の心理

過敏・配慮的・遠慮がち

自己愛の問題

非力な自己は
認識できない

関心を自分に集中し過ぎ**思い込み・とらわれの強さ**

(控えめで恥をおそれ、奥ゆかしさに美学を見いだす日本人の心性に親和的で受け入れられやすい)

回避性パーソナリティ障害の特徴

人前に出たり、社会参加
したりすることを躊躇する



人前で失敗したらどうしようと心配するあまり、
人と会うことや、社会活動に参加することが
できなくなる

批判や評価を過度に恐れる



「人前で恥をかきたくない」「拒絶されたらど
うしよう」といった先立つ不安が大きい

引きこもり

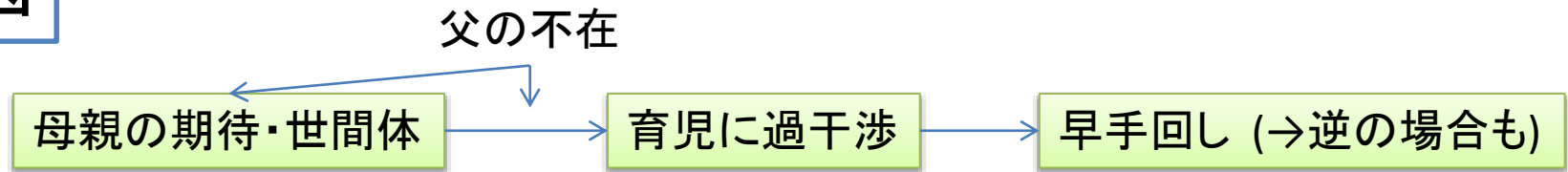
自分が傷つけないための防衛策

登校拒否
(不登校)

極端な自己防衛になると...

たいきやく
退却神経症
(フリーターへ発展)

成 因



親の期待を背負い、干渉され、主体的に物事を決める経験がすくない

周囲に決められることへの反発と
自分で決めることができずに誰かに判断をゆだねたい気持ち
(土居健郎「甘えの構造」)

親の世間体からの高い自我理想

現実のだめな自己

恥の心理(優勝劣敗)

ギャンググループへの参加不全

傷つき体験
(受験の失敗、友人関係の問題等)

登校拒否・退却神経症・社会的引きこもり

親への責任転嫁・攻撃的態度・暴力

プライドの背後
の依存性

退却神経症: 評価を恐れて社会参加はできないが、趣味やアルバイトをしているときは元気

パーソナリティ障害とは何か(牛島定信・講談社現代新書)

中核的信念

《自己》

私には何の取柄もない
私は無価値で、人から好かれない
私は不快な感情には耐えられない

《他者》

他人は私に批判的で、無関心で、恥辱を与える



条件付き信念

- ・もし私に近づいたとしたら、人は“本当の私”を発見して、私を拒むようになるだろう。私はそんなことには耐えられないだろう
- ・もし私が何か新しいことに取りかかって、それに成功しないならば、ひどいことになるだろう



道具的信念

- ・危険なことには関係しないのが一番だ
- ・何としてでも私は不快な状況を避けなければならない
- ・もし何か不愉快なことを感じたり、考えたりしたら、私は注意をそらしたり、酒や薬をやったりして、それを一掃するようにしなければならない

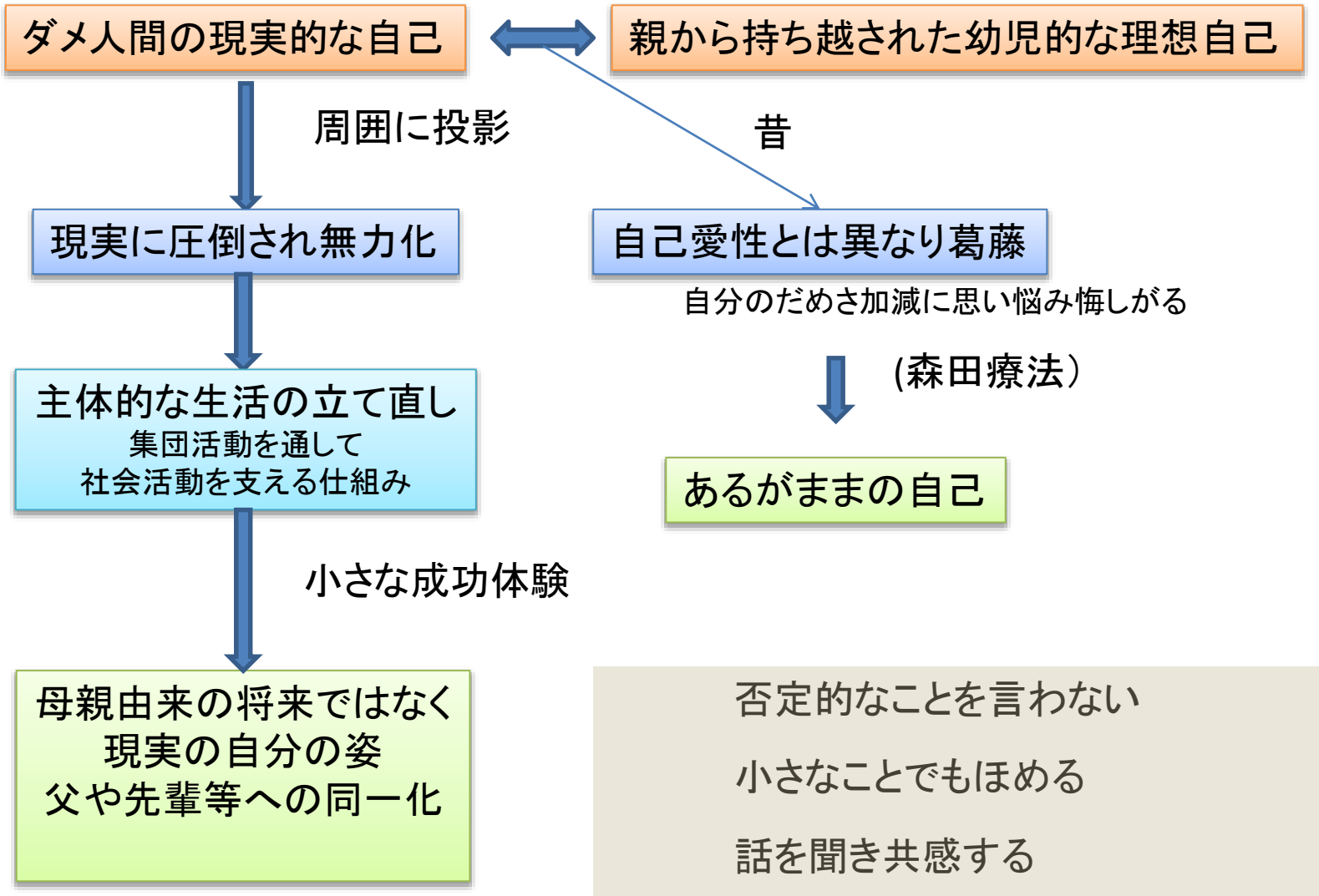


方略

他人から評価される可能性のある状況を回避する
不快な感情や思考を回避する

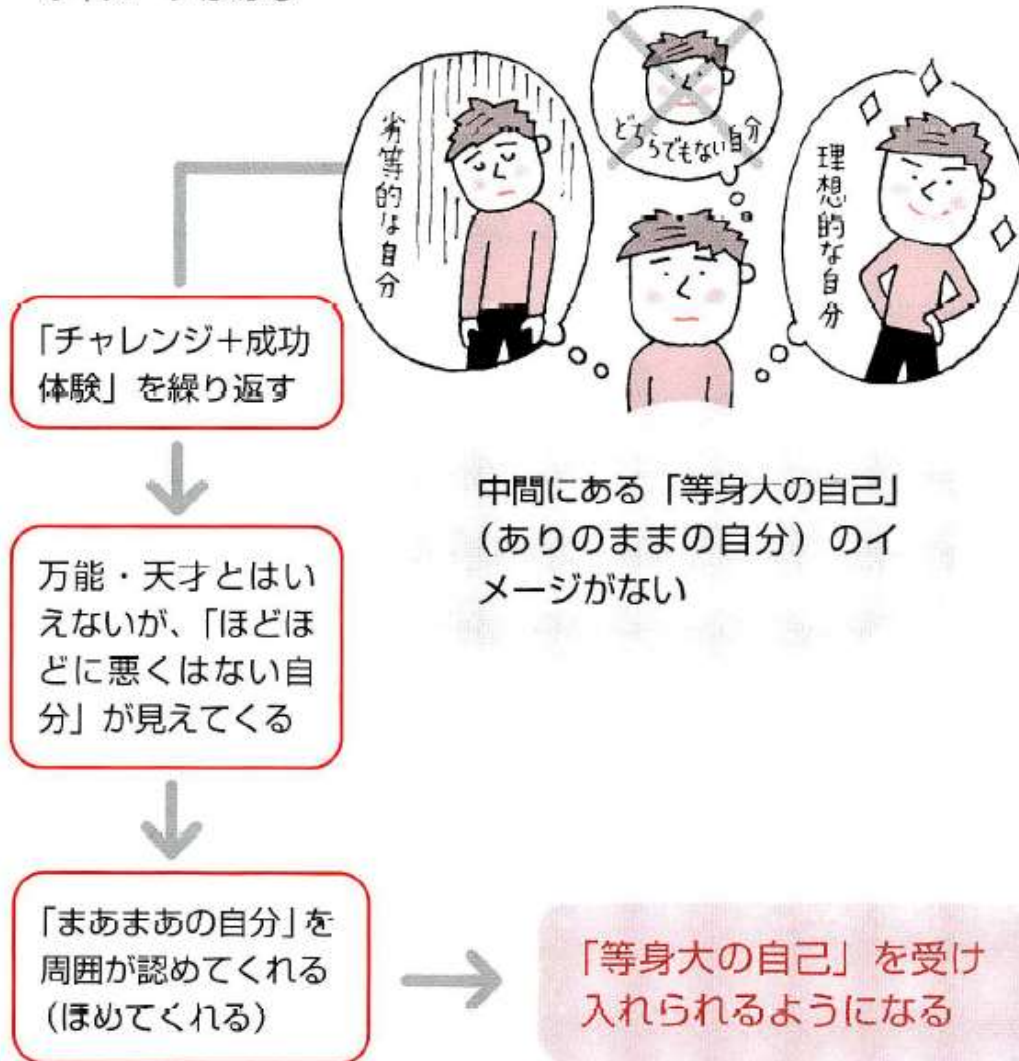
図6 回避性人格障害の認知プロフィール (Beck et al., 1990)

治療



「等身大の自己」を受け入れる練習を

回避性パーソナリティ障害の人には、親の期待のもとで形成された「理想的な自己」のイメージと、その理想に届かない「劣等的な自己」のイメージがある



患者さんの主体性を尊重する

治療者が誤った理解で主導する

本当はやりたいことがあるのに、「やってみたい」という意思表示がなかなかできないでいる



お膳立てをして、「これやってみたら？」と誘ってあげる



本人の希望と合致していないと、うまくいかない



患者さんに主体性を持たせる

本当にやりたいことを患者さん自身で見つけ、「こんなふうにやってみたい」とイメージさせる



他者に主導されてやるのではなく、患者さんが自発的に、主体性をもって物事に取り組む



自分で思い立ち、自分でやったということが充足感と自信につながる



ことばの掛け方に配慮する

回避性パーソナリティ障害の人は他者の評価に非常に敏感である

例 失敗したとき



マイナス評価ではなく、良かった点を取り上げてほめることで「結果は失敗だったけど、プロセスをほめられた」と自信がつく



「自分は最初から期待されていなかった」
「自分の実力はたいしたことないと思われる」と感じる

次回の意欲、チャレンジにつながるようなプラス評価のことば掛けをする

依存性PD

自己の無力感と他者への依存

DSM5による診断基準

301.6 (F60.7)

面倒をみてもらいたいという広範で過剰な欲求があり、そのために従属的でしがみつく行動をとり、分離に対する不安を感じる。成人期早期までに始まり、種々の状況で明らかになる。以下のうち5つ（またはそれ以上）によって示される。

- (1) 日常のことを決めるにも、他の人達からのありあまるほどの助言と保証がなければならない。
- (2) 自分の生活のほとんどの主要な領域で、他人に責任をとってもらうことを必要とする。
- (3) 支持または是認を失うことを恐れるために、他人の意見に反対を表明することが困難である（注：懲罰に対する現実的な恐怖は含めないこと）。
- (4) 自分自身の考えで計画を始めたり、または物事を行うことが困難である（動機または気力が欠如しているというより、むしろ判断または能力に自信がないためである）。
- (5) 他人からの世話および支えを得るために、不快なことまで自分から進んでするほどやりすぎてしまう。
- (6) 自分自身の面倒をみることができないという誇張された恐怖のために、1人になると不安、または無力感を感じる。
- (7) 1つの親密な関係が終わったときに、自分を世話し支えてくれるもとなる別の関係を必死で求める。
- (8) 1人残されて自分で自分の面倒をみることになるという恐怖に、非現実的なまでにとらわれている。

症状

無力感と 依存

どうしてよいかわからない(仕事へ行くのに何色のシャツが良いか、……)

決められない(責任と取れない) (職種、結婚、……)

物事を一人で計画してやることができない。

見捨てられる 恐怖

反対できない (違うと思っても嫌われるので言えない。怒れない)

無理をして他人の望むことをしてしまう(自己犠牲・虐待に耐える……)

一人ぼっちになってしまう恐怖

一人になることを避け、重要な他者とぴったりとついていく

親密な関係(恋人との破局、保護者の死)が終わると、別な関係を求める)

成因

常に親に支配されて育つ

親に背いて自立を図る行動は拒否され、
親に服従するときだけ「よい子」だと認めてもらえるという状況で育っている

生来、虚弱、不活発、臆病で引っ込み思案 → 親の過保護 → 依存↑

親が病弱、アルコール依存症、精神的に不安定 → 親の顔色を見て育つ

中核的信念

《自己》

私はまったく無力だ

私はまったく一人ぼっちだ

《他者》

他人は有能で、私の支えになってくれる



条件付き信念

- ・ 誰か有能な人が近くにいてくれるときだけ、私はうまくやっ
ていける
- ・ もし見捨てられたら、私は死んでしまうだろう
- ・ 愛されていないければ、私はいつも不幸せだろう



道具的信念

- ・ 私を守ってくれる人を怒らせないようにしよう
- ・ 彼（彼女）の身近にいるようにしよう
- ・ 彼（彼女）とできるだけ親密な関係になろう
- ・ 彼（彼女）をつなぎ止めておくために媚びへつらおう



方略

頼りになりそうな“強い”人と、依存的な関係を作る

図7 依存性人格障害の認知プロフィール (Beck et al., 1990)

対応

自分で選び、自分で決める練習(自分が何を望んでいるか)

何が好きかわからない・何を望んでいるかわからない

自分の本能と感性を信じてとにかく決める、選ぶ → 運命に任せ大切に

結果は理想的でなくても、自分で選ぶという経験

過度な我慢をしない

本音を言える関係

我慢 → 薬物依存、身体症状・・・

育児への影響(父の機嫌取りのために子供にも服従を強いる等)、

怒る

パーソナリティ障害がわかる本(岡田尊司・法検出版)



受け入れる

演技性PD

過度な感情表現と注目される願望

DSM5による診断基準

301.50 (F60.4)

過度な情動性と人の注意を引こうとする広範な様式で、成人期早期までに始まり、種々の状況で明らかになる。以下のうち5つ（またはそれ以上）によって示される。

- (1) 自分が注目の的になっていない状況では楽しくない。
- (2) 他者との交流は、しばしば不適切なほど性的に誘惑的な、または挑発的な行動によって特徴づけられる。
- (3) 浅薄ですばやく変化する情動表出を示す。
- (4) 自分への関心を引くために身体的外見を一貫して用いる。
- (5) 過度に印象的だが内容がない話し方をする。
- (6) 自己演劇化、芝居がかった態度、誇張した情動表現を示す。
- (7) 被暗示的（すなわち、他人または環境の影響を受けやすい）。
- (8) 対人関係を実際以上に親密なものと思っている。

症状

他人の注目や関心への欲求・依存

絶えず注目や話題の中心にしようとする

目新しいものや、刺激や興奮を渴望

熱狂的に仕事や事業を始めても、すぐに興味が薄れる

平凡な家庭生活で行き詰まることが多い

空虚感・うつ・不安・苛立ち

他者の称賛・注目の欲求

自己愛性パーソナリティ障害

素晴らしい理想の自分

演技性パーソナリティ障害

注目を集めること自体が目的

名誉を傷つけても注目を願望(露出症)

性的魅力や外見への拘り

人目を引くセクシーな雰囲気ですぐに次から次へと誘惑

派手な服装・露出的

親密な関係は困難で、同性ともうまくいかない

支配性と依存性

オーバーアクションで中身よりもパフォーマンス

演技的・誇張的・過度に感情的

感情表現が大げさで、芝居じみている

依存的で優柔不断

他者依存的な価値観 周囲の反応に依存し、影響されやすい(被暗示性が高い)

実際以上に人間関係を親密と考えやすい

→内心は自信がなく不安定 →鬱や不安障害が少ない

思考は、一貫性がなく、感覚的直観的で気まぐれ。周囲に影響されやすい

過度に印象的だが具体的な詳細を欠く話し方

時に空想性虚言症

自分で決めることも苦手 周囲の反応をうかがって判断する傾向

依存性パーソナリティ障害の傾向 ⇔ 自分が「主役」で、「中心」にいられるかどうか判断の基準

移ろいやすく、浅い感情

衝動的な傾向・被暗示性・解離や退行を起こしやすい

成因

エディプス葛藤の問題(フロイト)

異性の親に恋慕し、同性の親を敵視する幻想の世界

両親のいずれかの不倫その他の異性問題を抱える家庭状況→克服困難に

母親の懲罰不安→現実に悪いことをして幼児期の罪悪感から抜け出る

母性的愛情剥奪・愛情不足(口愛期とエディプス期の問題(J.マーモア))

女性 その代りを父に求めようとする $\xrightarrow[\text{抑圧}]{\text{成長}}$ 周囲の男性

妻に満足できない父親と、母親に愛情を感じられない娘との結びつき

理想化された父親像に比較して満足が得られず 転々とする

父の女性関係等に対して強い失望 激しい男性関係

男性 母親の関心・注目を得る術 $\xrightarrow[\text{抑圧}]{\text{成長}}$ 周囲の女性

母に対して両価的(理想化と敵意) 他の女性に対しても同様に

満足が得られず性愛的な遍歴か独身主義

代わりを父に求め 失望 過度に男性的か男性性の拒否

反社会的行動が多い(詐欺、虚現症)→アルコール、薬物依存

「心内の空っぽ感」

自分の姿に向き合えない

遺伝要因

双生児研究では0.67と高い

遺伝要因+環境要因→

演技的素因(過敏で情緒反応性が高く社交好き)

+

母性的愛情剥奪や父親に対する理想化と失望という体験

異性をひきつけ子孫を残すチャンスの増加⇔育児を好まない(注目が子供へ行く)

外傷体験

性的虐待・性的暴力

罪悪感より2面性の傾向

過度に明るく気に入られようとサービスする良い自分

醜い部分を隠している欺いている悪い自分

悪い自分を隠し見せかけの自分

行動の学習

身近なお手本の存在特に母親の同様の傾向

内面的な長所よりも容姿や面白さといった上辺にとらわれた養育

社会的要因

奇抜な外見や不倫関係も日常的な現症 → 演技性パーソナリティ障害は目立たなく

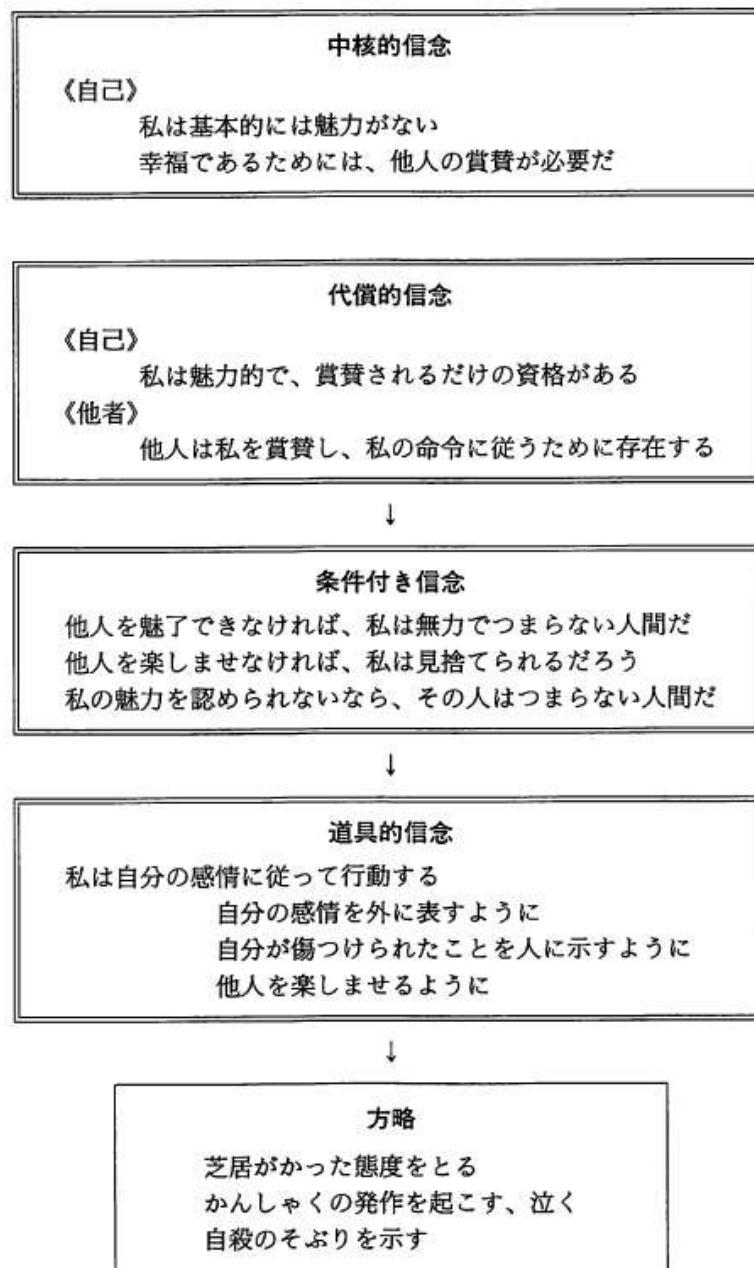


図4 演技性人格障害の認知プロフィール (Beck et al., 1990)

対応

感情を現実的な出来事と結び付けて体験するようにする

友人との間でとても悲しい思いをしたのは、具体的に何が原因だったか
(演技性を剥がすのではなく、真摯に理解しようとする態度)

治療者への関心に対する中立性

人間的な関心を持ちながら、便宜、助言、同情を示さない

自らの内面の思考、感情、欲求、願望に立ち向かえるよう

転移性恋愛(異性問題の表面化)

中立性→行動化→第3者と恋愛関係・万引き等社会問題

転移操作

子ども時代の感情体験がいかに現在の心を制約しているかを洞察

現在の治療者や第三者に向ける恋愛感情等

子供時代の体験

過呼吸他身体症状 振り回されず自分で対応できるように

問題行動の裏にある現実的な問題・本人の思いへの対応へ

注目追求行動へのパターンの自覚

又、周囲の関心・注目による飢餓感の減少と節度

自分の生き方の模索⇔(注目・関心を失う恐怖)

周囲の注目、関心に依存しない自分自身の価値観

趣味、スポーツ等中身を充実させ、目前の満足を後に伸ばす

接客業、サービス業、学校の先生等の仕事により外で活躍する場を

シゾイドPD

(極めて稀)

社会的関係からの離脱，対人関係場面での情動表現の範囲の限定の広範な様式

DSM5による診断基準

301.20 (F60.1)

- A. 社会的関係からの離脱，対人関係場面での情動表現の範囲の限定などの広範な様式で，成人期早期までに始まり，種々の状況で明らかになる．以下のうち4つ（またはそれ以上）によって示される．
- (1) 家族の一員であることを含めて，親密な関係をもちたいと思わない，またはそれを楽しみを感じない．
 - (2) ほとんどいつも孤立した行動を選択する．
 - (3) 他人と性体験をもつことに対する興味が，もしあったとしても，少ししかない．
 - (4) 喜びを感じられるような活動が，もしあったとしても，少ししかない．
 - (5) 第一度親族以外には，親しい友人または信頼できる友人がいない．
 - (6) 他人の賞賛や批判に対して無関心に見える．
 - (7) 情動的冷淡さ，離脱，または平板な感情状態を示す．
- B. 統合失調症，「双極性障害または抑うつ障害，精神病性の特徴を伴う」，他の精神病性障害，または自閉スペクトラム症の経過中にのみ起こるものではなく，他の医学的疾患の生理学的作用によるものでもない．

注：統合失調症の発症前に基準が満たされている場合には，「病前」とつけ加える．すなわち，「シゾイドパーソナリティ障害（病前）」．

症状

自他の区別が不十分で、外界のとらえ方がはなはだ主観的

周囲との世俗的なかわりを避け、超然とした生活態度を保っている

孤独を好み、感情表現も乏しいが、必要最低限の社交性を見つけている(一匹狼)

世俗的な称賛、批判には無関心

社会的交流における正常な敏感さに乏しい。場の空気に適切に反応しないために、社会的能力がない、または表面的で自分の世界に浸っているように見える。

安全に生きる証(実存感)を抱くことのできる特有の世界をもつ

現実と非現実の境目、抽象的、機械的課題を好む。

(音楽、文学、美術、料理、哲学等の学問、宗教等)

感覚的、肉体的、対人関係的な経験からは喜びの体験をすることは少ない

性体験にも興味がない

感情は抑制的で表現に乏しい

情動的反応のない味気ない外見・冷たく、よそよそしい

職業的な技能は、対人関係のかかわりが必要になると障害されやすい

強い繊細さ、傷つきやすさ→関係の内にも外にもできない(両価的)

自我が未統合

関係の内

侵入により呑み込まれる或いはバラバラになる不安

関係の外

庇護による統合が壊れる不安

適度な距離の必要性(山嵐ジレンマ・イン アンド アウトプログラム)

些細な外傷体験よりひきこもりへ(プライドを傷つけられて引きこもるものとは異質)

成因

遺伝的要因

双生児研究では遺伝的要因は半分くらい

特にドーパミン系の受容体の増加や過剰な活動による過敏性

他人との接触を避ける

環境的要因 親のシゾイド的態度

母親からの適切な愛情の不足 → 他人から愛情や保護を期待しなくなった

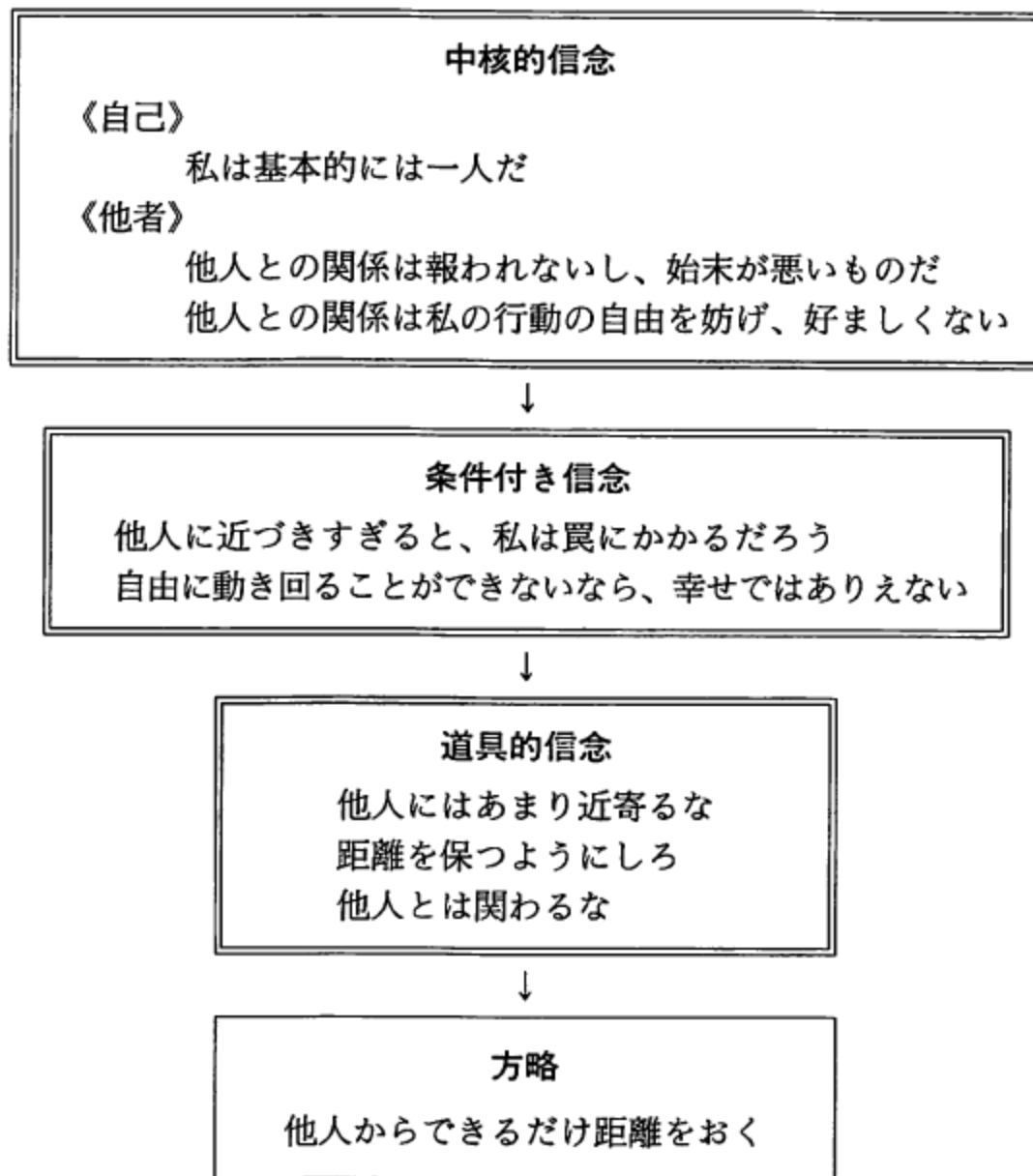


図2 分裂病質人格障害の認知プロフィール (Beck et al., 1990)

表4 分裂病質人格障害の自動思考

1. 私はむしろ自分だけでそれをやってみたい
2. 私は一人でいたい
3. 私は何かをやろうという意欲をもっていない
4. 私は何かをやっているという振りをする
5. なぜ私を困らせるのか？
6. 誰が私のことを何かと気遣うのか？

認知行動療法

表5 分裂病質人格障害の態度と仮説

自動思考や仮説の是正

ロールプレイ等

1. 人はほかの人とも交換できる対象である
2. 対人関係はやっかいである
3. 人生は他人さえいなければあまり複雑ではない
4. 対人関係は自分が悩むのに価するようなものではない
5. 自分と他人との距離を保つことはよいことであり、自分のことはあまり知られないようにしたい
6. 私の内面は空虚である
7. 私は社会的にうまく合っていない
8. 人生は退屈であり、あまり楽しいものではない
9. エキサイティングなことは、いまだかつてない

対応

このままの性格でどう生きるかを考えることが必要

急に距離を詰め過ぎず(距離を取り)、本人のペースやタイミングを尊重

パーソナリティ・スタイルを活かす(周囲に合わせずマイペースで)

(色々な社会的場面への参加を促さず、社会的役割を強くない)

創造の世界 地道で孤独な作業を淡々と続けてゆく分野

自然や機会を相手にした仕事

エンジニア、学者、研究者、プログラマー、農業、動物飼育や自然保護に携わる仕事、
山小屋やダムなどの管理者、僧侶、公務員、図書館司書などに適性

呑み込まれ不安による無理に合わせようとする姿勢にも注意(赤ずきんちゃん空想)

患者の内面の感情、欲求、考え、空想などを暴き立てない

内的世界に親和性をもちやすいことに注目した対応の仕方

芸術療法 動物や幼い子どもを介した他者との交わり

枠組みの弱い遊びの要素の多いデイケアその他の小集団活動も自我支持的となりうる

外からの押しつけではなく、自分を自由に表現できる要素

受け入れられていると感じ、ほかの人たちと一緒にいることを楽しめる

統合失調型PD

非現実的な考えや知覚に支配されている

診断基準

301.22 (F21)

A. 親密な関係では急に気楽でいられなくなる事、そうした関係を形成する能力が足りないこと、および認知的または知覚的歪曲と風変わりな行動で特徴づけられる、社会的および対人関係的な欠陥の広範な様式で、成人期早期までに始まり、種々の状況で明らかになる。以下のうち5つ（またはそれ以上）によって示される。

- (1) 関係念慮（関係妄想は含まない）
- (2) 行動に影響し、下位文化的規範に合わない奇異な信念、または魔術的思考（例：迷信深いこと、千里眼、テレパシー、または“第六感”を信じること；子どもおよび青年では、奇異な空想または思い込み）
- (3) 普通でない知覚体験、身体的錯覚も含む。
- (4) 奇異な考え方と話し方（例：あいまい、まわりくどい、抽象的、細部にこだわりすぎ、紋切り型）
- (5) 疑い深さ、または妄想様観念
- (6) 不適切な、または収縮した感情
- (7) 奇妙な、風変わりな、または特異な行動または外見
- (8) 第一度親族以外には、親しい友人または信頼できる人がいない。
- (9) 過剰な社交不安があり、それは慣れによって軽減せず、また自己卑下的な判断よりも妄想的恐怖を伴う傾向がある。

B. 統合失調症, 「双極性障害または抑うつ障害, 精神病性の特徴を伴う」, 他の精神病性障害, または自閉スペクトラム症の経過中にのみ起こるものではない.

注: 統合失調症の発症前に基準が満たされている場合には, 「病前」とつけ加える. すなわち, 「統合失調型パーソナリティ障害 (病前)」.

統合失調症を発症しているわけではないが、その状態に限りなく近い

生物学的、遺伝学的、現象学的、予後並びに治療に対する反応等統合失調症に重なる部分が多い

国際疾病分類では統合失調症のカテゴリー

症状

現実から遊離した幻想の世界を形成し、現実世界との通路が極端に細い

外観は、奇異な、その場にそぐわない服装をし、他を寄せ付けない独特な世界

実際にはそれほどではなく、多少のコミュニケーションを取ると独特な世界の形成がわかる

奇異な思考・知覚体験・身体的錯覚

迷信・テレバシー体験・第六感を信じること、魔術的儀式

被害関係念慮(同僚が上司と自分を陥れようとしている等)

知覚変容 別の誰かがいるように感じる、部屋の隅にお化けがいる

話は脱線しがちで特異な言い回しと構文。過度に具体的か抽象的

奇妙な強迫性があり、細部にわたり細々と話すので回りくどい

友人はおらず、過剰な社交不安(慣れは生じず、被害的で次第に恐怖感が増してしまう。

衝動的行動障害(過食・自傷・過料服薬・援助交際等)

本人にも周囲にもその心理過程の不明な激しい行動が突出→周囲は混乱、戸惑い

ストレスに反応して短い精神病エピソード(幻覚、妄想)

成因

遺伝的要因 シゾイド、統合失調症と関連が深い

一般人口よりも統合失調症をもつ人の生物学的第一度親族に多い

統合失調型パーソナリティ障害の発端者の親族には、統合失調症や他の精神病性障害も少し多い

DSM5診断統計マニュアル(アメリカ精神医学学会・医学書院)

環境要因 小さい頃に十分な刺激や親密さ、温もりを感じさせる体験が得られず

アズ・イフ・パーソナリティ

生まれてまもない赤ん坊の自我は、未統合で、ともすればバラバラになりやすい自我状態

程よくない母親



偽りの自己

対象からのメッセージを素早くキャッチしてそれに合わせるが、それは対象の考えや感情に調子を合わせているだけで、真の情緒的触れ合いが成立しているわけではない
内面は空疎で、隠された攻撃性は容易に周囲への悪意に変わるといった特徴

対応

パーソナリティ特性を本人、周囲が理解

本人の独特のライフスタイルや考え方を尊重
周囲に無理に合わせるのではなく、マイペースを保つ生活の維持

警戒心をもちつつも、無理にでも相手(対象)に合わせようとする姿勢をもちやすいことに注意

アイデア豊かで常識を超えたセンスを持つ点や、秘められた創造的な力を積極的に評価

妄想性PD

強い疑惑、猜疑、対人不信感

診断基準

301.0 (F60.0)

- A. 他人の動機を悪意あるものと解釈するといった、広範な不信と疑い深さが成人期早期までに始まり、種々の状況で明らかになる。以下のうち4つ（またはそれ以上）によって示される。
- (1) 十分な根拠もないのに、他人が自分を利用する、危害を与える、またはだますという疑いをもつ。
 - (2) 友人または仲間の誠実さや信頼を不当に疑い、それに心を奪われている。
 - (3) 情報が自分に不利に用いられるという根拠のない恐れのために、他人に秘密を打ち明けたがらない。
 - (4) 悪意のない言葉や出来事の中に、自分をけなす、または脅す意味が隠されていると読む。
 - (5) 恨みをいだき続ける（つまり、侮辱されたこと、傷つけられたこと、または軽蔑されたことを許さない）。
 - (6) 自分の性格または評判に対して他人にはわからないような攻撃を感じ取り、すぐに怒って反応する、または逆襲する。
 - (7) 配偶者または性的伴侶の貞節に対して、繰り返し道理に合わない疑念をもつ。
- B. 統合失調症、「双極性障害または抑うつ障害、精神病性の特徴を伴う」、または他の精神病性障害の経過中にのみ起こるものではなく、他の医学的疾患の生理学的作用によるものでもない。
- 注：統合失調症の発症前に基準が満たされている場合には、「病前」とつけ加える。すなわち、「猜疑性パーソナリティ障害（病前）」。

症状

普段の生活では常識的な生活感覚を保持しているが、
ストレスが高まり追い詰められた状況では、
並はずれた妄想的思考に陥ってしまう人

猜疑心

他人に利用される・危害を加えられる・騙されるのではないかと

身近な人の愛情や友情も信じられない

嫉妬深く配偶者の貞節を疑う

秘密主義 悪く利用されるのではないかと恐れている

過敏性

傷つけられることに極端に過敏

些細な言葉にも悪意や非難、嘲笑の意味が込められているように感じて屈辱と怒りを感じる

攻撃的

恨みにとらわれる

依存することを好まず、孤立も好まない → 相手を支配する対象関係に

場合によっては裁判沙汰へ

配偶者・職場の上司と部下との関係・競争を伴う同僚との間

二面性

表面では傲慢・易怒的⇔裏では臆病で劣等感

表面では道徳的・倫理的⇔裏では社会病質的傾向

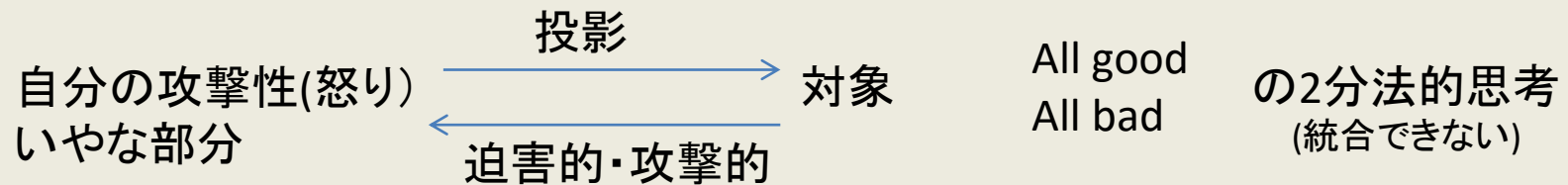
成 因

疑い深くて批判がましい母や、
母親の異様な心配性の相手をさせられる生活
虐待

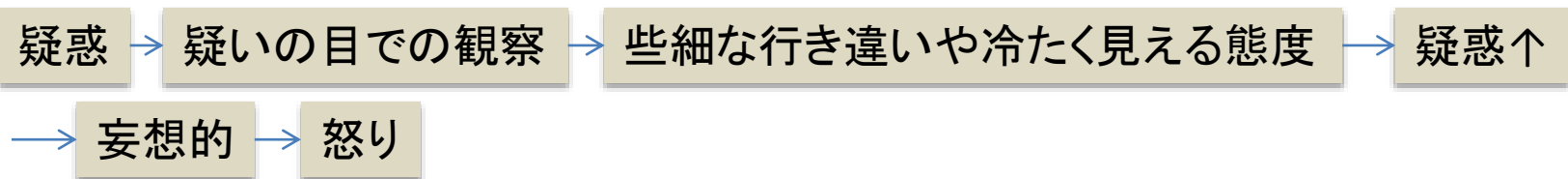
非難に敏感・警戒心が強くなる

非難したり責めたりする親に自分を同一化 人を非難・責める

遺伝的要因



攻撃性に恐怖・恥・羨望・罪悪感等の感情が複雑にからんで特有の臨床像を形成



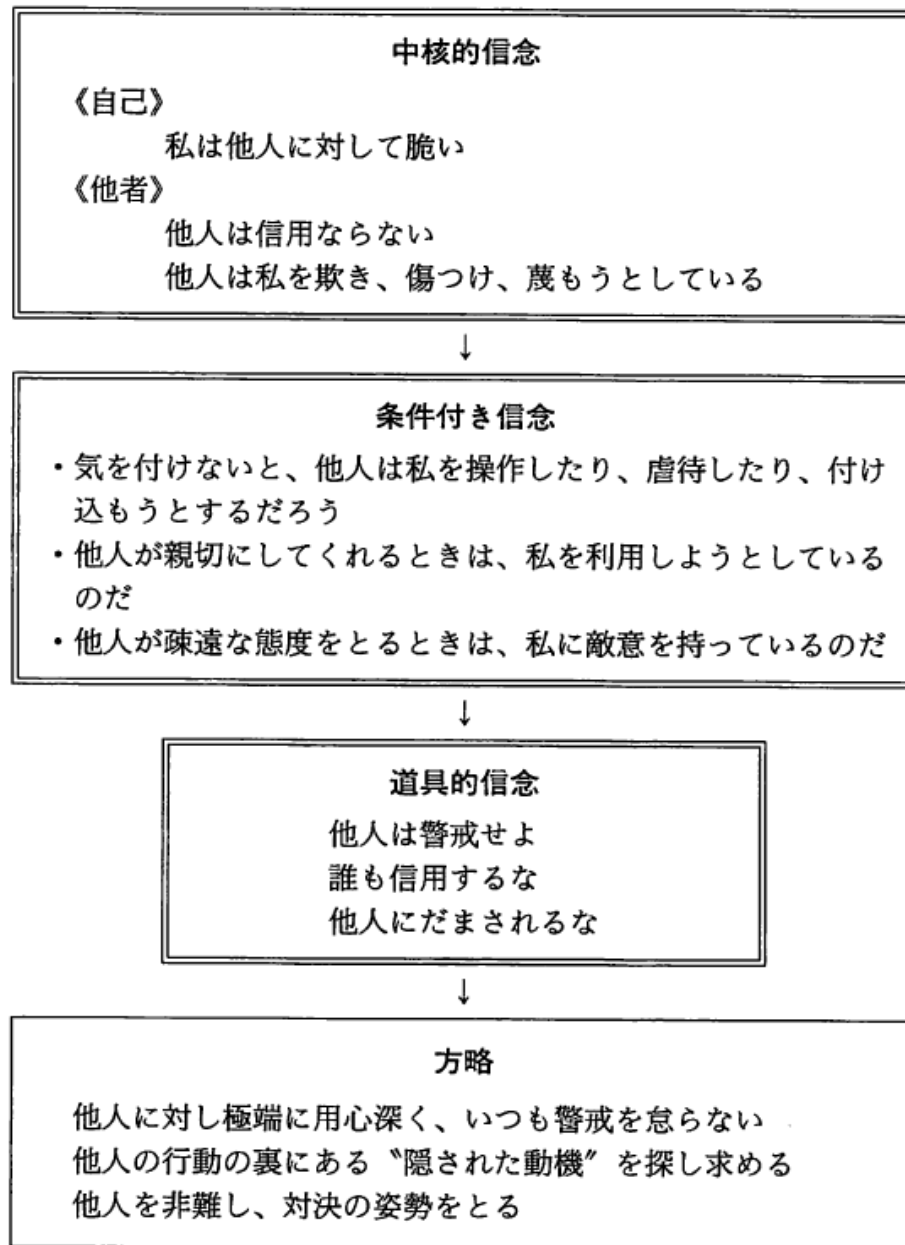


図1 妄想性人格障害の認知プロフィール (Beck et al., 1990)

対応

距離を保ち、中立的に 支持療法的アプローチ

誠実だが、あくまで第三者として中立な態度で接する

親しさは、曝されることであり危険→情緒的孤立へ退却

「私はこれでいいと思う。あなたもそれでいいと思う」といった、
双方認める態度つまり距離を認めてあげる

治療者との関係ができそうになると患者に疑惑、猜疑の心が浮かびがる
時に過度の理想化と支配欲求

一貫した態度(決まり事と約束を大切に)

秩序を大切にする。人間を信じられず法や規則を重要視

本人と周囲の対立した関係を仲介

孤立無援となり助けを求めている気持ちの理解

妄想的思考の契機となった現実からの発展であることの認識

支配・被支配の関係に過敏で反応しやすい

受け身的立場を嫌う(自尊心に注意)

怒りの背後にある孤独で寂しい気持ちによりそう

母親を烈しく罵る子に「あなたの思い込みよ」と弁明する代わりに、
優しく「〇〇ちゃん、疲れているみたいね」と抱きかえしてやる母親の姿(コンテイング)

「過敏で拘りやすい性格」とあるという性格傾向の自覚

性格特性を生かす

自分のために働いているときは極めて真面目で成功

軽はずみに行動したり、失言したりすることが少ない

役人・公務

気配り能力や人間のパワーダイナミクスを読み取り、操作する独特の勘

経営者・参謀役・人事

用心深く、最悪の事態も常に想定しながら行動

管理・メンテナンスの仕事

正義感が強く、律儀、反骨精神も旺盛

法律家・政治家

サイクロサイド(循環気質)PD

社交的

人生をあるがままに受け入れる傾向をもち、柔らかで温かみを感じさせる人間味をもち、態度は自然で開放的、周囲の人とはたちまち友だちとなる人たち

一方で、他者の不幸や苦しみに物静かに共感し、控え目ながら理屈抜きで人の理解者となるタイプの抑うつ的要素をもった人

クレッチマー (躁うつ病の病前性格として記載)

1. 社交的、善良、親切、温厚

同調性 対象と一体となって、現実的な関係を楽しみ、社会的に活動することに実感を持つ

2. 明朗、ユーモアがあり、活発、激しやすい

躁的要素

3. 寡黙、平静、陰うつ、気弱

うつ的要素

成因

口愛期の対象破壊に由来する対象喪失

自我の確立→母からの分離の欲求と依存の葛藤(相対的依存期・離乳期)

73

不十分な依存体験

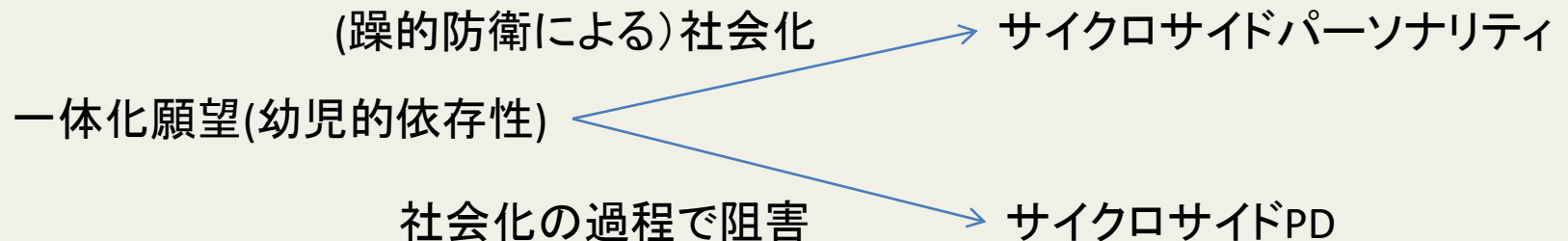
口愛性格(強い「一体化願望(幼児的依存性)」)

同調性

自我は、まとまりをもつが、まだ母親が必要な自我状態。

見捨てられないように、人のため、ひいては社会のために尽くす人間
心の奥深くに対象破壊(怒り)というテーマを埋め込み、その上に楽園の世界

人間的触れ合いを喜び、対立・不和を避け、信奉する組織(会社など)や崇拝する上司や先輩をもち、
私生活や仕事面では絶えず協力者や支援者などに囲まれ
人のため、世のために尽くすことを人生の目標にしているかのような印象



遺伝的要因(サイクロサイド) → サイクロサイドPD
幼児期の発達的問題

1. 類境界型 (双極2型障害)

一体化体験の欠落 → 一体化願望の不全 → 無力感

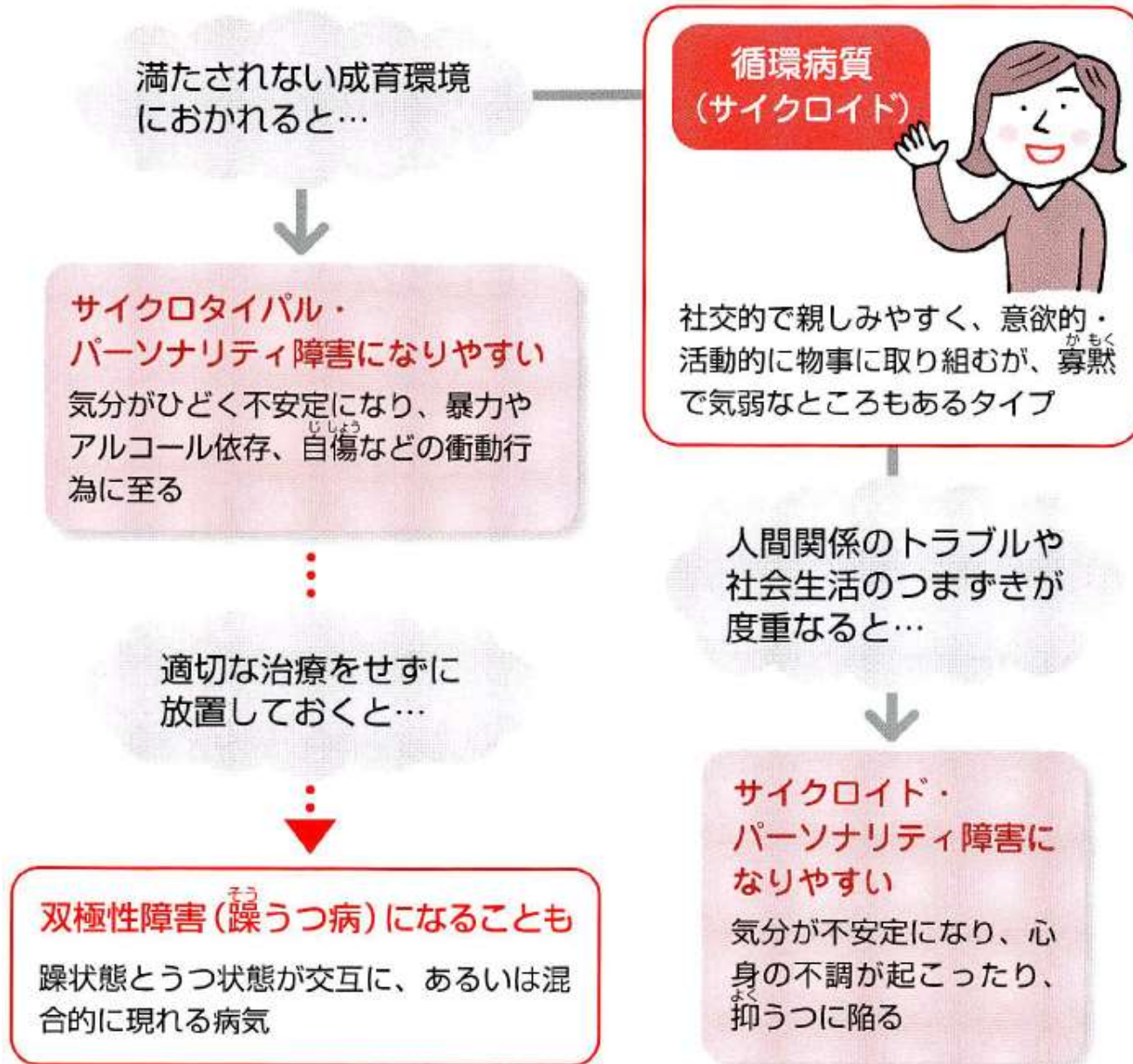
→ 衝動行為(アルコール乱用・性依存等)

境界型の見捨てられ感とはちがい、
情けをかけあう関係がなくなったり、
人間関係でずれが生じて無力に

2. 依存型

受け身的・依存的ひきこもりへ

循環病質とパーソナリティ障害の関係



対応

性格傾向の認識

争いを好まず、他の人たちと一緒にワイワイガヤガヤするのを好むといった**基本的心性を確認**

対象との一体化

大切な人を持っていること

組織との一体化

組織に忠誠であること

社会規範との一体化

規範意識が支えになっていること

得意な、**依存性を社会的活動に昇華**させることを支援

怒りの突出

性的乱脈、自傷、アルコール乱用等多様な衝動行為

人間的交流の復活

入院等により、社会的責務から解放し、病棟スタッフや他患との人間的交流の復活
身近な人たちとの会食、旅行等

つながりの喪失の主原因となった出来事への配慮

(つながりの喪失が罪悪感となっている場合もある)

依存型

できるだけ患者のイニシアティブ(わがまま、自己主張、反抗あるいは拒否の態度など)を育み(親からの自立)、**一体化の体験**へつなげる